

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年6月7日】第85号



子どもたちの歌声

5月31日(月)の2時間目、農大稲花小では久しぶりに子どもたちの歌声が聞こえました。新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止していた合唱指導ですが、文部科学省からの通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について(通知) 文科初第1344号令和2年12月10日」を再度検討し、指導については実施が可能であるという結論に達したためです。遮音性の高い音楽室ではなく、多目的室AおよびBを連結した広い教室に移り、換気のために2方向の窓やドアを開放するとともに、常時マスクを着用した児童間の十分な距離を確保しつつ、大声を避け、短期間での合唱指導として、これを再開しました。なお、2年生以上のリコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏学習については、文科省の通達を理解し、安全の確保について可能性を慎重に検討します。無理をして、万が一とはいえ、クラスターを発生させることだけは避けなくてはなりません。

解放された窓から階下の職員室へも、子どもたちの歌声が流れてきました。小学校らしさが少し戻ってきたようで、うれしい朝でした。

【文部科学省通知文】

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について(通知)文科初第1344号 令和2年12月10日」

https://www.mext.go.jp/content/20201210-mxt_kouhou01000004520_01.pdf

フラフープを置いて

体育の授業においては、感染症防止に加えて、熱中症予防というもう一つのハードルがあります。マスクの着用については議論のあるところと承知していますが、本校では、呼気の荒くなるような運動は別として、鉄棒など軽度な運動を行う場合や、友だちの運動を見る、あるいは教員からの説明を聞くなどの場面では、原則としてマスクを着用することとしています。教員は、子どもたちの体調や呼吸の様子を常に見守り、適宜、飲水の機会を設けるなど、最大限の注意を払っています。

グラウンドの隅に一人ひとつずつのフラフープを置き、その輪の中に各自の水筒を置いて授業を受ける子どもたち。フラフープの中でマスクをはずし、おしゃべりはしないで休んだり、水を

飲んだりするというルールもよく理解しています。

元気に運動しているか、職員室からグラウンドを見ることも多い毎日です。中にはまだ、体操帽を忘れて制帽で体育の授業を受ける子ども、先生の説明に集中できないで手遊びしてしまう子どももいます。教室の椅子のように決まったポジションがないグラウンドでは、それぞれの子どもの学びへの姿勢や集中力の有無が顕著に示されます。どのような時でも、まっすぐに先生の方を向き、また、友だちの運動する様子を見たり、応援したりできる子どもに育つよう指導を続けてまいります。また、体育だけでなく、忘れ物については、体育に限らず授業が適切に受けられるよう、ご家庭でのご指導をお願いします。

なお、水泳授業については、今年もまた残念ながら実施しない決定をいたしました。水泳はマスクをはずして行うものです。また、児童の間隔を2メートル以上開けることが求められています。これらのことから、感染症防止と安全確保を両立させることが現状では困難だと判断したためです。新型コロナウイルスの蔓延が早く収まり、来年の夏には子どもたちの歓声が、農大稲花小の素晴らしいプールに響くことを願うばかりです。

昆虫標本が到着

本物の持つ魅力を大切にする農大稲花小では、本年度4月以来、（一財）進化生物学研究所のご理解をいただき、山口就平主任研究員に月替わりで昆虫標本の展示をしていただいています。

4月は、美しいチョウであるオビクジャクアゲハのなかまと、モルフォチョウのなかまでスタートしました。5月はがらりと変わって、擬態が素晴らしい東南アジアからのコノハムシとカレハカマキリでした。そして、6月1日(火)からは、世界で一番大きいカブトムシと、世界で一番重いカブトムシの展示が始まりました。名前はなんでしょう？ どれくらい大きいのでしょうか。保護者の皆様も、お子様にお聞きになってみてください。お話がはずむかもしれません。



普段が大事

農大稲花小では、様々な教育資源を活用して子どもたちの興味・関心を刺激し、日々の指導の中で、知識・技能を確実に習得させることを目指しています。毎日の授業は、とても大切です。何故なら、毎日の授業に真剣に取り組む姿勢が真の学力に直結し、また、将来の学力の伸びにつながるからです。毎日の授業に真剣に取り組む姿勢を支えるのは、当然ながらきちんとした生活習慣でしょう。授業に集中できず落ち着かない子ども、いらいらして友だちと衝突してしまう子ども、自分を律することができずにマナーを忘れてしまう子ども、忘れ物や失くし物が多い子どもなどの指導については、保護者にも連絡して原因を一緒に考え、解決の道を探すようにしています。スクールカウンセラーの力を借りることもあります。軌道修正は早いうちがいいからです。うれしいことに多くの場合、問題と思われたことも無事に解消し、一段と成長した子どもの姿を見ることができます。そんな時、子ども自身のがんばりを素晴らしいと思い、また、保護者のご理解やご協力にも感謝するのです。子どもの育つ力を信頼しつつ、その育ちを支える良い環境作りに大人は努めなくてはなりませんね。

てつどう教室

6月4日(木)、2年生の稲花タイムは、小田急電鉄株式会社のご協力による「オンライン(Zoom)てつどう教室」でした。運転士・車掌だけでなく鉄道を安全に動かす様々な人々の仕事、いろいろな車両の姿、ダイヤグラムや新宿駅を通過するたくさんの列車の様子、赤い非常ボタンと青い駅係員呼び出しインターホンの違いと役割、また守ってほしいマナーなどについて、ビデオやクイズを交えながら、制服姿の担当者から楽しくお話を聞きました。

クイズ好きな農大稲花小の2年生、どのクイズにも真剣に取り組めます。また、質疑応答タイムでは、なんで小田急という名前なのか？ 急行停車駅の数はいくつ？ 特急車両の種類はいくつ？ ロマンسカーの運転士さんになるには特別な免許証が必要なの？ など時間が足りないほどの質問が出ました。「小田急電鉄を作った人は誰ですか？」という質問には、「農大稲花小を作ったのは榎本武揚先生だけど、小田急は誰かな」などの声も聞こえ、盛り上がりました。ちなみに、創業者は利光鶴松という方だそうで、校長も担任も、一つ知識が増えました。

小田急線だけでなく、公共交通を利用する児童の多い農大稲花小です。毎日、公共交通機関の安全運航のために働く方々、利用する様々な人々についても想像力を働かせ、マナーを守っての通学に結び付くよう、これからも指導をしなくてはと改めて心した「てつどう教室」でした。わかりやすい説明をし、また、子どもたちの問いに丁寧に答えてくださったご担当者の皆様にも御礼を申し上げます。

小田急電鉄株式会社：<https://www.odakyu.jp/>

校長 夏秋 啓子